

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所として		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	従業員の子どもや保護者様に対する想いが強い事。	ご利用者様一人一人の年齢や発達に合わせて、生活環境の見直しを行い、子ども達が自ら理解して行動することができる(しやすい)環境となっている。	より個別に対応できるよう、一人ひとりの発達の様子を細かく把握する。
2	支援者間で協力し合う体制	児発管を中心に互いに声を掛け合って、業務を分担するなどチームワークができています。	年度が変わり、職員の入れ替えがあった時にでも児発管を中心にチームワークよく運営できるようにする。
3	改善(生活環境など)が必要な時に迅速に対応できている。	子ども達一人一人の状態の把握をし、その都度必要な環境を整備していった。	ホールでの運動療育に必要な物を完備し、子ども達が遊びながら成長を促していけるようにより良い環境を整えていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援(保護者様同士の交流する機会)	保護者様のニーズがどの程度あるのか。また、その場を担当できる支援員が少ない事。	今年度は、親子通所で交流できる機会を設けたが、その場を進行するスタッフの課題や交流会の内容を見直す必要がある。
2	地域の方々との交流の少なさ。	事業所内のことに手を取られてしまい、地域での活動へと広げられずにいる。	放課後等デイサービスのイベントで地域の方と交流できる場を設けている。 事業所内の課題解決を優先としつつも少しずつ地域との交流を深めていけるようにする。
3	勤務時間内で行えるようにするための業務の工夫	子ども達や保護者様への支援に必要なツールの準備の他に、記録や計画など、書面に残さなければいけない業務とのバランスが課題。	それぞれの業務を見直し、業務時間内に行える体制整備が必要